

令和7年度 全国学力学習状況調査の結果と傾向について

4月に6年生を対象に「令和7年度全国学力・学習状況調査」を実施いたしました。個人票につきましては、8月27日（水）にお渡ししましたが、本校の調査結果を分析し、課題と改善の方向を検討しましたのでお知らせいたします。また、札幌市の実施報告、分析、改善策も以下のページに掲載されています。併せてご覧ください。

https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/gakute/gakute_hp.html

質問紙調査の結果から

矢印は、全国平均に比べ

- ・上回っている↑
- ・やや上回っている↗
- ・同程度→
- ・下回っている↓
- ・やや下回っている↘

【生活習慣等】

朝食を毎日食べている	↑
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	↑
毎日、同じくらいの時刻に起きている	↗

○基本的な生活習慣がしっかりと身に付いています。日々のご家庭での取組の成果がうかがえます。

【自己有用感等】

先生は、よいところを認めてくれている	↑
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	↗
自分と違う意見について考えることは楽しい	↑
困りごとや不安があるときに学校にいる大人にいつでも相談できる	↑
学級生活をよりよくするために、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めている	↑
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	↑

○互いのよさを認め合い、話し合いながら問題を解決しようとする児童の割合が、全国と比較して高い結果となりました。今後も、いじめ防止に取り組むとともに、キャリアパスポートを活用して自分の成長を自覚したり、友達のよさに気付く活動を取り入れたり、目指す姿のロールモデルに触れたりする経験を大切にしながら、自己肯定感・自己有用感を高めていきます。

【学び方に関する意識等】

分からないことがあったときに自分で学び方を考え、工夫することができている	↑
学習した内容について、振り返り、次の学習につなげることができている	↑
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ	↑
友達との話し合いを通じて考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる	↑
読書が好きだ	↑
PC・タブレットなどのICT機器を活用することができる	↑

○分からないことや詳しく知りたいことを自分で工夫しながら学ぶ姿勢が身に付いてきています。家庭学習の習慣にもつなげながら、引き続き主体的な学びを支援していきます。

○読書の習慣が身に付いていて、本に触れる環境が整っているご家庭が多いことが分かりました。学校でも読書の楽しさを味わうことができる機会を増やしていきます。

○一人一台端末のクロームブックを十分に活用できていると答えた児童の割合が高いです。五感を使った体験とICT機器の活用を有機的につなげ、これからの時代に必要な力を見極めていきます。

教科に関する調査結果の概要及び改善の方向

【国語】

本校の概要

【思考力・判断力・表現力等】

- 「話すこと・聞くこと」
 - ・全国平均を上回っている。
- 「書くこと」
 - ・全国平均を上回っている。
- 「読むこと」
 - ・全国平均を上回っている。

【知識及び技能】

- 「言語の特徴や使い方」
 - ・全国平均を上回っている。
- 「情報の扱い方」
 - ・全国平均を上回っている。
- 「我が国の言語文化」
 - ・全国平均を上回っている。

今回の調査における課題

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができること。

改善の方向

- ・ 漢字の学習の際には、文中の使われ方を意識したり、漢字を使った文作りを行ったりする活動を大切にする。
- ・ 読む目的を明確にした上で、図表などが文章のどの部分と結びつくかを線で結ぶなどして視覚的に理解できるようにする。

【算数】

本校の概要

【数と計算】

- ・ 全国平均を上回っている。

【図形】

- ・ 全国平均を上回っている。

【変化と関係】

- ・ 全国平均を上回っている。

【データの活用】

- ・ 全国平均を上回っている。

今回の調査における課題

- 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できること。

改善の方向

- ・ 分数は単位分数の幾つ分かで表せることを操作活動や図を用いて理解させる。
- ・ 正答に至る過程を大切に、判断の理由や考えたことをノートに書いたり、書いたことを基に話したりする活動を充実させる。

【理科】

本校の概要

【A区分】

- 「エネルギー」を柱とする領域
 - ・ 全国平均を上回っている。
- 「粒子」を柱とする領域
 - ・ 全国平均を上回っている。

【B区分】

- 「生命」を柱とする領域
 - ・ 全国平均を上回っている。
- 「地球」を柱とする領域
 - ・ 全国平均を上回っている。

今回の調査における課題

- 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現すること。
- 「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現すること。

改善の方向

- ・ 結論を伝える発言や記述の中で、根拠として結果を示したり、理由を表現したりすることのよさに気付かせる。
- ・ 身近な実験で体積変化を実感させた上で地球規模の現象と結び付けるなど、授業で学んだことが実際の自然現象とどう結びついているかについて考える機会を増やす。